

研究種目：特定領域研究

研究期間：2005～2009

課題番号：17083019

研究課題名（和文）散楽の源流と中国の諸演劇・芸能・民間儀礼に見られる  
その影響に関する研究研究課題名（英文）Origin of Sangaku Performance and Study of its Influence in Various  
Drama, Performing Arts and Popular Rituals in China

研究代表者

加藤 徹 (KATO TORU)

明治大学・法学部・教授

研究者番号：80253029

研究成果の概要（和文）：本研究は、特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」  
の中の「演劇班」として、日本と中国に残存する演劇・芸能の調査研究を行った。具体的には、

- (1) 古代(7c 頃)以降の散楽の源流
  - (2) 中世(14c 頃)以降の寧紹地域の演劇の伝播
  - (3) 近世(18c 頃)以降の明清楽の日本伝来
- の三つを中心に調査研究を行い、東アジアの芸能が「いつ、どのようなルートで、どのような要因によって伝播したか」を考察した。

研究成果の概要（英文）：We did the researches and studies about the traditional theaters  
and performances that still exist in Japan and China. Our study was done as a part of  
the larger studies entitled "Maritime Cross-Cultural Exchange in East Asia and the  
Formation of Japanese Traditional Culture: Interdisciplinary Approach Focusing on Ningbo".  
We were the "Drama Group", Field Research Section of this large study project.

We have the 3 main subjects of our researches:

1. Ancient times: the origin of SANGAKU, after 7<sup>th</sup> century AD
2. Middle ages: the spread of Ning-Shao local theaters, after 14<sup>th</sup> century
3. Modern times: Minshingaku, the Chinese music which was introduced into Japan, after 18<sup>th</sup> century

We considered and studied how the performing arts spread over the East Asia: Why, when,  
through what channel did they spread?

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	5,400,000	0	5,400,000
2006年度	5,400,000	0	5,400,000
2007年度	5,400,000	0	5,400,000
2008年度	5,400,000	0	5,400,000
2009年度	5,400,000	0	5,400,000
総計	27,000,000	0	27,000,000

研究分野：中国・中国文学/各国文学・文学論

科研費の分科・細目：

キーワード：散楽，演劇，音楽，芸能，浙江省，中国文学，東洋史

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、平成 17 年度～21 年度特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を焦点とする学際的創生—」（略称「にんぷろ」。以下、略称を用いる）の開始にともない、「現地調査研究部門」の中の「演劇班」として、研究代表者・研究分担者あわせて計 4 名のチームとしてスタートした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、(1)「にんぷろ」の一部としての目的、(2)「演劇班」独自の目的、の二つに大別できる。

(1)「にんぷろ」の一部としての目的：東アジアの海域交流という視点から日本伝統文化の形成を再考する、という全体的な目的を、本研究も共有している。「にんぷろ」には以下の 6 つの重点項目(2007 年策定)があった。

- (イ)寧波を中心とした記録保存の社会文化史
- (ロ)寧紹地区の環境・生態と人間社会の営み
- (ハ)東アジアの視点から見た五山文化
- (ニ)地域間交流からみた寧波-博多-鎌倉-平泉
- (ホ)東アジアにおける<訓読>の思想文化
- (ヘ)<東アジア海域>の理論化

本研究は、上記の 6 つの重点項目のうち、(イ)(ロ)(ニ)(ロ)(ホ)の 4 つと関連が深い。研究代表者・加藤徹を例にとると、明清楽の伝来の研究調査で得られた成果をもとに、(ニ)と(ヘ)の項目の視点から論文を作成し、他班との班間交流による共同著作において成果を発表した。

(2)「演劇班」独自の目的：本研究では 12～13 世紀以前からの日中の比較演劇史研究に新しい方法を開拓することを目的とした。日中両国に残存する文献資料のみならず、現在も上演されている演劇・芸能の現地調査をあわせて行うことで、文献資料の不備を補い、芸能文化の伝播ルートと、それを支えた民衆の社会階層的な特徴や心性についての探究を目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究のメンバー 4 名が手分けをして、現地調査と文献調査の両面から、以下の三方面に主眼をおいて、現地調査と文献研究の両面から調査研究を行った。調査対象の時代の古い順番に並べると、(1)散楽の源流調査(担当：細井尚子・竹本幹夫)、(3)寧紹地域の演劇・講唱芸能についての調査(担当：上田望)、(2)明清楽など近世中国音楽の日本伝来についての調査(担当：加藤徹)、である。

冒頭の「研究成果の概要」で述べたとおり、本班の研究対照となる地域と時代は、きわめて広大である。これは、本班の研究が「学際的創生」をうたう特定領域研究「にんぷろ」の一部であることを考慮し、あえて調査対象を狭く限定せず、特定領域研究全体の目標である「<東アジア海域>の理論化」に資するための新しい知見を広く集めることを主眼とした結果である。

## 4. 研究成果

日本や中国の各地で現地調査を行い、今も残存する伝統演劇・芸能について、撮影、録音、脚本の文字化などの記録保存を行った。また、伝統演劇・芸能についての文物資料を収集整理し、それを成果報告書やウェブサイトで公開することで、本研究の研究成果を、国内外の他の研究者も利用しやすい形にした。今後「にんぷろ」以外の研究者も、本研究の成果を利用・引用することが期待される。

具体的な研究成果の内容については、下記の発表論文等をご覧いただきたい。

本研究は、演劇・芸能という具体的な表象芸術を対象としている関係上、大学の研究者以外の一般人の興味関心もひいている。一例をあげると、長崎や沖縄の伝統音楽の実演者も、本研究の成果に関心を寄せている。長崎文献社から発売された長崎明清楽の CD「龍馬のハナ唄(赤盤)」(2010/6/16 刊)の解説書で

は、研究代表者・加藤徹がウェブページで公開中の明清楽の資料や図版、解説文を、出典を明記のうえ引用している。この他にも、現地調査の過程で、われわれの側が現地のインフォーマントや実演者に新しい情報や知見を提供し、それが逆に現地の芸能に影響を与えるという事例が何度もあった。本研究の終了後も、このような形においても研究成果の社会還元が続くことが期待される。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 17 件)

- ①加藤徹、「孔明・義経・釈迦・カエサル」、全国漢文教育学会『新しい漢字漢文教育』、第 50 号、pp. 24-34、2010、査読無
- ②細井尚子、「关于琉球上演的中国戏剧」(中国語論文)、『戯劇芸術』、第 6 期、pp. 25-30、2009、査読無
- ③板谷徹、細井尚子、「关于《琉球剧文和解》」(中国語論文)、『戯劇芸術』、第 6 期、pp. 10-13、2009、査読無
- ④細井尚子、「中国仮面劇の諸相」、早大演劇博物館グローバルCOE紀要『演劇映像学 2008 別冊報告集』、pp. 65-72、2009、査読無
- ⑤竹本幹夫、「散楽と仮面」、グローバルCOE『成果報告集』、2、pp. 1-8、2009、査読無
- ⑥上田望、「(調査報告) 浙江東部の伝統芸能の現在と未来」、『東アジア海域交流史現地調査研究—地域・環境・心性—』、第 3 号、pp. 228-237、2009、査読無
- ⑦上田望、「寧波の伝統演劇空間」、『平成 21 年度科学研究費補助金(特定領域研究/東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成/散楽の源流と中国の諸演劇・芸能・民間儀礼に見られるその影響に関する研究(演劇班)) 研究成果報告書』、36p、2010、査読無
- ⑧上田望、「紹興宝巻研究 3 付「沈香扇宝巻」校注影印」、『平成 21 年度科学研究費補助金(特定領域研究/東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成/散楽の源流と中国の諸演劇・芸能・民間儀礼に見られるその影響に関する研究(演劇班)) 研究成果報告書』、104p、2010、査読無
- ⑨竹本幹夫、「On the principle of jo-ha-kyu in contemporary no theatre」、『N0 Theatre Transversal (トリア大学)』、pp. 69-77、2008、査読無
- ⑩竹本幹夫、「室町時代の能舞台」、『能と狂言』、6 号、pp. 46-51、2008、査読無
- ⑪加藤徹、「明治維新を可能にした日本独自の漢文訓読文化」、『中央公論』、第 123 年第六号、pp. 198-208、2008、査読無
- ⑫加藤徹、「社会階層から見た日中文化交流 - 漢文派と唐話派」、『季刊『大航海』(新書館)』、No. 66、pp. 41-49、2008、査読無
- ⑬上田望、「紹興宝巻研究 2 付「双英宝巻」校注影印」、『平成 20 年度科学研究費補助金研究成果報告書』、全 1 巻、101p、2008、査読無
- ⑭上田望、「地方戲的越界: 論江蘇如皋童子戲の三種表現形態」、『金沢大学中国語学中国文学教室紀要』、10、pp. 57-71、2007、査読無
- ⑮上田望、「紹興宝巻研究 付「双状元宝巻」校注影印』『平成 18 年度科学研究費補助金(特定領域研究)研究成果報告書』、96p、2007、査読無
- ⑯上田望、「(新刊紹介) 寧波講唱芸能の現在・過去・未来-『寧波曲芸志』と『寧波伝統曲芸精選』-」、『東アジア海域交流史 現地調査研究—地域・環境・心性—』、第 1 号、pp. 157-160、2006、査読無

[学会発表] (計 12 件)

- ①竹本幹夫、「日本の散楽・猿楽が鑑賞される場について」、にんぷろ・演博グローバ

ルCOE共催企画『演劇舞台構造の国際比較研究会』、2009年12月11日、早稲田大学・大隈会館

②加藤徹、「孔明・義経・釈迦・カエサル」、全国漢文教育学会、2009年5月31日、二松学舎大学・中洲記念講堂

③上田望、「浙江東部の演劇空間-南戯はどこへ消えたのか?」、(にんぷろ)重点項目(イ)寧波を中心とした記録保存の社会文化史」第3回研究会、2009年3月28日、大阪市立大学・法学部棟

④竹本幹夫、「伝統戯劇在現代日本の発展以及日本現代戯劇」、中国芸術人類学会国際学術会議、2008年11月1日、中国芸術人類学会

⑤細井尚子、「关于运用假头及相关空间之考察」、国際研究集会「東方戯劇与劇場」、2008年10月20日、山西師範大学・戯曲文物研究所

⑥竹本幹夫、「猿楽演出与舞台」、国際研究集会「東方戯劇与劇場」、2008年10月20日、山西師範大学・戯曲文物研究所

⑦加藤徹、「音楽・芸能から見た東アジア社会」、にんぷろワークショップin東京、2008年7月26日、東京大学・山上会館

⑧細井尚子、「中国における仮面劇の諸相」、国際研究集会「散楽と仮面」、2007年12月8日、早稲田大学・大隈小講堂

⑨竹本幹夫、「散楽と仮面」、国際研究集会「散楽と仮面」、2007年12月7日、早稲田大学・大隈小講堂

⑩加藤徹、「演劇・芸能を調査する上での留意点について」、2007年度「にんぷろ」現地調査部門全体会合、2007年9月29日、明治大学・リバティタワー

⑪上田望、「地方戯的越界:論江蘇如皋童子戯的三種表現形態」、中國戯劇與宗教學術研討會、2007年9月13日、香港浸會大學

⑫細井尚子、「中国の芸能から見た琉球”御冠船踊り研究会」、2007年6月16日、沖縄県立芸術大学

〔図書〕(計4件)

①加藤徹,他、東アジア地域間交流研究会編、中国書店、『から船往来—日本を育てたひと・ふね・まち・こころ』、「中国伝来音楽と社会階層—清楽曲「九連環」を例にして」、2009、pp.219-242

②加藤徹、ビジネス社、『梅蘭芳世界を虜にした男』、2009、250p

③加藤徹、中村春作、市來津由彦、田尻祐一郎、前田勉,他、勉誠出版、『「訓読」論』、「表現文法の代用品としての訓読」、2008、pp.261-275

④竹本幹夫、小島毅編、勉誠出版、『義経から一豊へ—大河ドラマを海域にひらく』、「中世演劇における義経像」、2006、pp.44-47

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.geocities.jp/cato1963/singaku.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

加藤 徹 (KATO TORU)

明治大学・法学部・教授

研究者番号：80253029

### (2) 研究分担者

上田 望 (UEDA NOZOMU)

金沢大学・歴史言語文化学系・准教授

研究者番号：90293331

竹本幹夫 (TAKEMOTO MIKIO)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：90138181

細井尚子 (HOSOI NAOKO)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授

研究者番号：40219184

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：